「物づくり」「人づくり」「未来づくり」で業界活性化

「三大事業」さらに推進

JTB旅行スタンプ総会 アカデミーは新展開へ

JTB旅行スタンプ加盟店連盟（河合徹会長＝岐阜県・美濃関物産館、555会員）は9月19日、東京の京王プラザホテルで第49回通常総会を開いた。連盟の三大事業「日本おみやげアカデミーグランプリ」「みやげ塾」「みやげみらい委員会」について、それぞれの担当者が今後の事業展開を報告。来年4月に新体制に変わるJTBとはさらなる連携を確認した。

総会は理事以上の役員と、「日本おみやげアカデミーグランプリ運営委員」「みやげみらい委員会委員」ら本部委員による代議員総会とした。全員参加の総会と代議員総会を隔年で行うことが2015年の総会で決まっており、今回は初の代議員総会となった。

総会では2017年度事業計画、予算案を審議。2017年度（2017年7月～2018年6月）は、見直すことが決まっている「日本おみやげアカデミーグランプリ」の実施内容のさらなる検討や、「みやげみらい委員会」「みやげ塾」の継続実施が決まっている。

□

日本おみやげアカデミーグランプリは、同運営委員会の松井道昭委員長（京都府・松井物産）が検討状況を報告した。

優れたみやげ品を表彰する日本おみやげアカデミーグランプリは、みやげ品の販売促進、みやげ業界に携わる人々のブランディング回復を目的に2000年から実施。2015年まで9回開催されたが、2016年の第10回は熊本地震の影響で中止。これを機にさらなる内容の充実に向けて、事業内容をゼロベースで検討することが決まっており、現在まで同委員会で議論が進められてきた。

委員会では会員へのアンケート調査も行い、その内容を踏まえて事業のあり方を検討。店舗単独で商品開発を行うのが困難との意見もあることから、地域や支部、県単位で商品開発を行い、共同開発商品をエントリーする手法や、商品のエントリーにとどまらず、各地で取り組んだ商品開発のプロセスを舞台で発表するなどの案が上がっている。

既に北海道支部で商品の共同開発が進められ、支部加盟店限定商品として、JTBが北海道で行う国内旅行キャンペーン「日本の旬北海道」（10月から来年3月まで）に合わせて発売する予定。

委員会では今後も連盟会員から意見を聞くなどして、事業内容を検討。2020年をめどに、新しいスタイルで開催する予定だ。

□

連盟本部から付議された今後の取り組みについての議案に対し、連盟の諮問機関、みやげみらい委員会の松岡光政委員長（鹿児島県・知覧パラダイス）が答申。来年4月にJTBが新体制となり連盟の支部事務局も現在のJTB国内旅行企画に移行することから、連盟も新体制に呼応した支部体制に再編、その機能強化を図るとした。

□

会員の若手社員らの育成塾「みやげ塾」は、1999年から今年まで計23回開講。延べ参加者は457人を数えている。

毎回2泊3日の日程で、観光業界の各分野の専門家の講義を聞くとともに、講義の内容をもとに業界を取り巻く諸問題の解決策を受講者同士が議論、発表している。

総会では、今年3月1～3日に行われた第23回みやげ塾の一部を再現。接遇マナー講師のヒューマン・エデュケーション・サービス代表、権代美重子氏が「おみやげ品販売における付加価値～接遇のブラッシュアップ」をテーマに講演した。

また受講者を代表して宮交ショップアンドレストラン（宮崎市）の大久保みき氏が、塾の感想や、塾で学んだ内容を自社にフィードバックしている事例を語った。

次回の第24回みやげ塾は来年2月19～21日、東京都多摩市のJTB研修施設「フォレスタ」で行う予定。

□

河合会長はあいさつで、旅行の個人化など、環境の変化に対応する必要性を強調。「私たちの商環境は決して良好ではない。団体を柱としながらも、個人旅行者を積極的に取り込まなければならない。るるぶトラベル（JTB）のおみやげ券付き宿泊プランに参画するなど、〝タビナカ需要〟を積極的に取り込まなければならない」と訴えた。

表彰では、契約店に多くの送客をしたJTBの個所を表彰する「ダイヤスタンプ収受実績JTB優秀個所表彰」、JTBと多くの取引をした連盟会員を表彰する「ダイヤスタンプ取扱実績優秀加盟店表彰」などを実施。

また今年から「JTB表彰個所からの推薦加盟店」を選定。楽しい口上が修学旅行の生徒らに人気の神仙境（奈良市）が選ばれ、JTBの高橋広行社長から感謝状が贈られた。

来年の第50回通常総会は首都圏支部の担当で東京都内で開催する。

初の代議員総会となった第49回通常総会

みやげみらい委員会・松岡委員長

アカデミー運営委員会・松井委員長

みやげ塾を受講した大久保氏の発表

みやげ塾の権代講師

高橋社長

「ならではの価値」実現

JTB高橋社長 グループ再編を説明

来賓で出席したJTBの高橋広行社長は、「JTBグループ『ならではの価値』実現に向けた経営改革」と題して、来年4月1日に実施するグループの経営体制再編について説明した。

高橋社長は「2016年度は大幅な減収減益を強いられた。一言で言うと、われわれが提供する商品、サービスと、お客さまが求めるものとの間にギャップが広がりつつある。環境の変化に対応できていない」と自ら指摘。

大都市への人口集中、日本人旅行者の減少、インバウンド急進、テクノロジーの進化など「2006年の分社化以降、想定をはるかに超える環境の変化が生じている」として、その「痛切な危機感」から、「ギャップを埋めるために（分散している）経営資源の集中化と意思決定のスピードアップを図る」とした。

具体的には、地域事業会社、国内と海外の造成箇所などグループ15社を株式会社ジェイティービーに統合。ジェイティービーは国内個人、国内法人、グローバルの三つの事業ビジネスユニットを設置し、それぞれが事業戦略を策定、推進する。

そして「デジタルとヒューマンタッチが融合したソリューションでお客さまの期待を超える価値を生み出し、成果を約束する」とした、JTBグループ「ならではの価値」を追求するとした。

高橋社長は今回のグループ再編を「継続的に発展するための、攻めの経営改革」「第三の創業」と位置付け、JTB旅行スタンプ加盟店連盟の会員に向けて「皆さまと手を携えて、厳しい環境変化の波を乗り越えていきたい」とした。

来年の開催地、首都圏支部の代表

表彰式

連盟のシンクタンク　みやげみらい委員会
～みやげ業界の未来を見据え旅行者を魅了する地域コンテンツ開発の推進～

オンリーワン運動　日本おみやげアカデミーグランプリ
～お客様に感動と地域文化を伝えるみやげ創りをめざして～

人材づくり　みやげ塾
～みやげ業は地域文化の伝達産業である～

JTB　感動のそばに、いつも。

JTB旅行スタンプ加盟店連盟

会長　美濃関物産館　河合徹
副会長（会長代理）北海道ブロック（北海道支部長）　上川北の森ガーデン　佐藤秀樹
副会長　東北ブロック（東北支部長）　磐梯高原ゴールドハウス目黒　佐藤正男
副会長　首都圏ブロック（首都圏支部長）　金谷ザ・フィッシュ　羽山篤
副会長　中部ブロック（北陸支部長）　加賀温泉九谷満月　池端秀志
副会長　関西ブロック（関西支部長）　丹後一の宮松井物産　松井道昭
副会長　中国ブロック（中国支部長）　宮島屋鳥居　佐々木雄三
副会長　四国ブロック（四国支部長）　松山民芸伊予かすり会館　仙波勝
副会長　九州ブロック（鹿児島支部長）　長崎鼻長崎鼻記念堂かめや　有村隆雄
副会長　沖縄ブロック（沖縄支部長）　名護ナゴパイナップルパーク　安里清

副会長　アカデミー運営委員長　丹後一の宮松井物産　松井道昭
副会長　みやげみらい委員会　知覧パラダイス　松岡光政
常務理事　新潟支部長　小出物産館深雪の里　田原直之
常務理事　群馬支部長　長野原浅間酒造観光センター　櫻井芳樹
常務理事　栃木支部長　中禅寺中禅寺観光センター　須藤文夫
常務理事　山梨支部長　塩山信玄館　山野壮仁
常務理事　静岡支部長　焼津焼津さかなセンター　森徹
常務理事　東海支部長　下呂舞台峠観光センター　日下部彦宏
常務理事　長野支部長　長野峠の釜めし本舗おぎのや長野店　川原芳且
常務理事　北九州支部長　大宰府中神茶屋　竹井正彦

常務理事　長崎支部長　早津杉谷本舗橘店　杉谷徳隆
常務理事　熊本支部長　千里草千里レストハウス　菊池秀一
常務理事　大分支部長　由布院温泉ゆふいん菓子工房五御門　木之元英明
常務理事　宮崎支部長　高千穂の家千穂の家　佐藤雅高
常務理事　昭和新山壹番館　阿野裕司
常務理事　田沢湖畔田沢湖共栄パレス　鬼川孝助
常務理事　高畠町よねおりかんこうセンター　舟山隆
常務理事　小田原小田原鈴廣風祭店　鈴木智恵子
常務理事　伊勢岩戸屋　牧戸福嗣
常務理事　信州中野ビアンデ信州中野店　巾下吉裕

常務理事　金沢寄観亭　深津康之
常務理事　京都市内清水順正おかべ家　上田両四郎
常務理事　奈良市内三笠観光会館　清水宗和
常務理事　道成寺姫道成寺の里お食事処あんちん　石倉忠明
常務理事　鳥取砂丘砂丘会館　松永泉
常務理事　菊ヶ峠西の屋グループ菊ヶ峠店　西山健司
常務理事　玉城（南城市）おきなわワールド　大城宗直
監事　松島海岸松島蒲鉾本舗　朱二太
監事　石山淡味の膳処洗心寮　寺島正和
常務理事　JTBスーベニア＆フォトセンター所長　菊地力
常務理事　JTBスーベニア＆フォトセンター担当マネージャー　原子明宏